

第4回 姫路駅北駅前広場整備推進会議 議事概要

No.	項目	意見の概要	市の考え方
1	資料4 について	会議の進め方として、まず資料4に対する質疑応答を行うのがよいのではないか。	その他の委員に異存がないので、その通りに会議を進める。
		市案の駅前広場の面積について、他都市の事例と比較して相対的な大きさはどうか。	駅前広場の面積として、姫路駅は16,100㎡、金沢駅東口が姫路と同程度で19,400㎡、岐阜駅北口は規模が大きくなり26,500㎡である。
		市案の環境空間面積の算定では、実際に利用できないような乗降場の交通島などもカウントしているので、憩いや緑の空間として実際に利用できる箇所を環境空間とすべきではないか。	駅前広場計画指針では、環境空間として車道以外の部分をカウントすることとなっており、今後、乗降場の交通島などの使い方を検討したい。
		12街区の仮換地未指定とは何か。	12街区は土地区画整理事業の一般宅地であり、当街区の東半分は仮換地の指定がされておらず、今後いずれかの権利者が土地を指定されて利用することになる。
		駅前広場の都市計画区域が、現在の神姫バスの用地に食い込んでいるが、その対応はどうなっているのか。	この部分は、今後換地指定することとなるが、その候補地として、12街区の一部またはその他の場所が考えられる。
		姫路駅北側のバスやタクシー乗降場の現況について。	(資料4のp16を用いて現況を説明) 駅前での交通機能の確保については、数量そのものではなく、サービス水準を維持できるように配置していきたい。
		資料4のp21の「歩道」の部分について、休日や昼間の時間帯にはイベントなどに利用することが可能であるとのことだが、利用可能な広場として捉えているのか。	「歩道」を広場として利用可能であるかについては、スライド中の面積の比較例を参考にさせていただきたい。休日や昼間の人の少ない時間帯ではイベントなどが可能ではないかと考える。
		旧市バスターミナルについて、今後どのような利用を考えているのか。	旧市バスターミナルについては、平成23年度までは現状の市バス路線を維持する必要があることから神姫バスが使用することになり、駅前広場の工事中は、バスやタクシーの交通機能の確保のために使用することになると考えている。
		市バス路線の移譲後の2年間と駅前広場の整備中については、旧市バスターミナルと12街区の仮換地未指定地を確保しなければ、バスの運行に支障がでる。	駅前広場整備後の利用計画については現時点では決まっていないが、交番の有力な候補地として検討している。
この会議で、サンクンガーデンの機能についても議論するのか。	8月頃に基本的なレイアウトを決めてから、サンクンガーデンの機能などを議論していきたい。		

No.	項目	意見の概要	市の考え方
1	資料4 について	駅前広場の計画はコアゾーンや新駅ビルの計画と大きく関わるので、JRとのすり合わせが必要になるのではないかと。	新駅ビルの具体的な計画やコアゾーンの構想がまとまれば、例えば新駅ビルとコアゾーンの2階を歩行者デッキで繋ぐことなどについて、JRなどとすり合わせていきたい。
		<p>デザインコンセプトの「優美な現代和風」の実現において、新駅ビルの形状やデザインなどが大きな要素を占めるので、駅ビルのデザインがある程度まとまったら、この会議で情報を提供していただきたい。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>この会議は新駅ビルのデザインなどの情報を提示する場ではなく、むしろ、この会議で決まったデザインコンセプトなどを新駅ビルの計画に反映させていくものと考えている。</p>	
2	配置計画 について	歩行者の安全対策を第一に考え、車と歩行者の動線を分離することを最優先に検討していただきたい。市案では横断歩道が多いので無くすようにしてほしい。	フォーラムのアンケート結果を見ても、駅前広場に望む機能として「便利で安全な歩行者空間の確保」が最も多く、一番大事な要素であると認識している。
		身障者用バースを一般車乗降場内に計画し、タクシーと自家用車の乗降場を完全に分離してもらいたい。	身障者用のバースの必要性については認識しており、市案では、タクシーと一般車の乗降場は分離できている。
		広域的な視点から、自家用車乗降場を駅前から少し離れた場所に配置し、駅前を公共交通を中心として計画することも、今後の検討の一つではないか。	今後、議論していただきたい。
		最終的なアウトプットのイメージとしては、姫路市案以外の提案も議論してレイアウトをまとめていくのか。	市案は都市計画区域内での配置であるが、これに限らず実現の可能性のある提案については検証していきたい。
		各種団体の提案のうち、都市計画区域を逸脱したものについては検証の対象としないのか、それとも提案の意義を汲み取って検証を行うのか。	
		一案の提示だけでは問題点を指摘することしかできないので、選択肢の幅を広げ、より良い案をつくるためにも、複数の案を提示していただきたい。	シャレットワークショップの案は、各団体の提案内容をまとめていただいているので、シャレットワークショップの案を基本に問題点を抽出し、提案したい。
コアゾーンなどを含めて駅広の機能の配置を検討できれば、計画に広がりを持たせることができるのではないかと。	コアゾーンについては、一定の条件を付けて民間へ売却する方針であるので、駅前広場の機能を配置することは考えていない。		

No.	項目	意見の概要	市の考え方
2	配置計画について	自転車の利用に対する対応が課題であり、広場が広いほど自転車利用も増えるので駐輪場の設置などの検討が必要になる。	
3	スケジュールについて	会議のスケジュールでは、6月に歩行者空間を検討し、8月に配置レイアウトの検証になっているが、交通機能などを含めた具体的な配置の提示はいつ頃になるのか。 8月頃にレイアウトを決定した後に、基本設計に着手し、金額が確定した時点で、市議会に諮るのか。	今日の意見を踏まえ、今まで提案していただいた案について検証し、6月頃に基本的な方針を提示するとともに、8月頃には基本的なレイアウトを決定したいと考えている。その後、基本設計を行いながら、随時、市議会にも報告していきたい。
4	各種団体の提案について	駅前広場の大部分を交通結節機能で占めるのではなく、車道が歩行者の動線を遮断しないよう、便利、安全、景観、シンボルなどを重視した、提案をしていきたい。 各種団体からの意見を尊重して、市案を変更するものと認識している。一昨年の12月に姫路市案が公表されたことで、皆が問題意識をもって提案をしたことは良かったと思う。	
5	その他について	交通管理者として相談や要望をしたい事項があるが、この会議において、自転車の通路や駐輪禁止区域の設定などの具体的な内容についても議論するのか。	公安委員会などと協議をしながら基本的な配置を決めた後に、詳細な内容に関しては協議していきたい。
		駅前でのトイレの設置を望まれるお客さんが多く、観光客にとっても姫路駅前に24時間利用のトイレがあったら良いと思う。	トイレの設置については各方面から多数の要望があり、その必要性については認識している。
		大手前通りと駅前広場を検討する姫路市の部署が違うが、この会議に大手前通りの計画を担当する部署(建設局)は出席しないのか。	十二所前線以南の大手前通りと駅前広場を一体的に検討する必要がある場合には、会議の内容を担当部署(建設局)に報告・相談していきたい。
		現状の駅前の方がまだ良いのではと思うくらい、市案には注文を付きたい箇所がある。 レイアウトを8月に決定することは、スケジュール的にはかなり厳しいので、会議を有意義なものとするために、委員の各々が具体的なイメージを持った上で、次回からの会議に臨んでいただきたい。	